

令和三年六月十三日 北海道旭川偉光会館ひかりのやかた 神玉園開園式しんぎよくのその

神 示

人間は 一人一人 神の手の中 「運命実体」に導かれて

有限の時時代を歩み抜くもの存在

人生の真実「真理」を知った人人間は誰もが

「教え」を人生の支えに生きる「悟り」を得る

なれど 人生の姿目的を知らずに

知識と努力で「生きる」人人間が多い

人生に夢目標が持てずに 心不安に迷い

悩みを深める因が ここにある

信者に申す

家族で偉光会館でいに出入りを重ね 家族で「教え」を学び

和のある家庭を築く努力をする

家族一人一人の人生は 神の手の中 守られ 導かれ

「運命」に重なる人生が歩める

家族一人一人の人生が重なり 関わりを強めて

「心の道」に良き因を残してゆく

人生の終日を迎えた時

故人も 家族も 共に歩んだ人生に「思い」を返し

感謝 感動の心を深めてゆく

生きた「証し」 故人の玉たまを 神魂宿る館たまに預けて

ますます家族の絆は深まり 故人の魂も 安心 安定

「神玉園」建立かなえて

神玉祭しんぎよまつりの儀式「真理」も深まってゆく